

令和3年度自己点検・評価の結果を受けた取組結果について

○ 取組むべき課題

R5.3.31 現在

| NO. | 課題 | 評価報告書 | 担当組織 | 取組内容 | 取組結果 |
|-----|-------------------------|--------------------|-------|--|---|
| 1 | アドミッション・ポリシーの見直し | 評価項目2(1) 2・3頁 | 入試委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度入学者選抜要項(令和5年7月)での公表に向けて、新ポリシーを立案する。 ・中央教育審議会のガイドライン(平成28年3月31日)の内容を踏まえる。 ・WGで検討が進められている新カリキュラムに係るディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーとの一体性にも意を払う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新ポリシーについては、内容の方向性について話し合いを行っているが、新年度に令和6年度改正の新カリキュラムの作成が本格化することから、最終的にその内容と調整を図り、完成させていく予定である。 |
| 2 | 成績評価の客観性・厳格性を担保する仕組みの検討 | 評価項目3(2) 4・5頁 | 教務委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの教務委員会での議論を踏まえつつ、他大学の異議申立制度等も参考にして検討する。 ・学生が教員に直接問い合わせる方法ではなく、事務局を通して所定の様式により成績評価の再認識を求めるなど、公正・公平な手続きを定める方向で検討する。 ・令和5年度の実施に向けて検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・成績確認制度については、教務委員会において導入に向けた検討を進めており、令和5年度から導入する予定である。 |
| 3 | 学生の学修成果の把握と分析 | 評価項目9(3) 15・16頁 | FD委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・GPA、授業アンケート、卒業アンケート(授業・修学に関する項目)等に基づき、学生の学修成果(※)に関する分析を行い、分析の結果を踏まえた教育活動の改善方策について検討する。 <p>※学修成果とは、大学での学修を通じて学生が身に付ける知識、能力、資質等をいう。学位の授与にあたっては、ディプロマ・ポリシーの中で示されている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の把握と分析については、FD委員会において各種アンケートの実施及びとりまとめを行い、その分析結果を各教員に配布して、授業改善等を促している。 ・また、FD委員会でアンケート結果の分析に基づき、教員全体の教育活動の質の底上げを図るための研修等を実施するなど改善方策について検討している。 |